

様式第 2 号（第 9 条関係）

会議録

会議の名称	令和 4 年度第 3 回ふじみ野市上下水道審議会			
開催日時	令和 5 年 3 月 2 3 日（木） 開会時刻 午後 1 時 1 5 分 閉会時刻 午後 3 時 3 0 分			
開催場所	ふじみ野市役所 本庁舎 5 階 大会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	原田 晴男	市長	高畑 博
	副会長	玉田 修	都市政 策部長	山風呂 敏
	委員	小野寺 貴郎	事務局	高橋 昌巳
	委員	江口 太	事務局	大塚 昌利
	委員	穴田 義男	事務局	柳澤 貴史
	委員	市來 久美子	事務局	島田 二郎
	委員	木村 キクイ	事務局	岡澤 真樹
			事務局	羽鳥 一彦
			事務局	門叶 豊
			事務局	福本 早理
			事務局	館野 沙織
会議の議題	【議題】 (1) 令和 5 年度ふじみ野市水道事業会計予算について (2) 令和 5 年度ふじみ野市下水道事業会計予算について (3) 経営戦略の改定と水道事業アンケート調査集計結果 （概要）等について (4) その他（報告）			
会議の公開又は非公開の別	公開・ 非公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0 人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	① 会議次第 ② 上下水道審議会委員名簿 ③ 上下水道審議会条例 ④ 説明資料 1 「令和 5 年度ふじみ野市水道事業会計 予算」 ⑤ 参考資料「令和 5 年度ふじみ野市水道事業会計予 算収入支出説明書」 ⑥ 説明資料 2 「令和 5 年度ふじみ野市下水道事業会計 予算」 ⑦ 参考資料「令和 5 年度ふじみ野市下水道事業会計予			

		算収入支出説明書」 ⑧説明資料3「ふじみ野市水道ビジョン・経営戦略の改定について」 ⑨説明資料4「ふじみ野市下水道事業経営戦略の改定について」 ⑩説明資料5「水道事業アンケート調査集計結果【家庭系】（概要版）」 ⑪説明資料6「水道事業アンケート調査集計結果【事業所】（概要版）」 ⑫経営戦略改定関係参考資料 1か月あたり20m ³ の水道料金及び下水道使用料順位（令和3年度決算） ⑬「令和3年度 ふじみ野市 水道 下水道 事業年報」
	事務局	都市政策部 上下水道課
議事の確定	確定年月日	令和5年4月 日
	記名押印 又は署名	役職名 会長 原 田 晴 男 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。

別紙
会議内容

1 開会

2 会長挨拶

3 市長挨拶

4 議題

(1) 概要説明（事務局）

(2) 質疑応答

ア 令和5年度ふじみ野市水道事業会計予算について

○損益計算書上、令和4年度と比較して他会計負担金が減額しているのはなぜか。

⇒令和4年度は、1月検針分及び2月検針分の水道料金について減免を実施した。国からの交付金を財源とした減免事業であるが、国から水道事業に直接交付金が入るのではなく、一般会計を経由するかたちでの経理であったため、令和4年度の損益計算書上は他会計負担金が計上されている。令和5年度については、予算編成時点では減免事業実施の計画がないことから、令和4年度と比較して減額となっている。

○他会計負担金を増やせば、赤字予算にならないのではないか。

⇒水道事業については、利益をもって費用を賄うことが原則であるため、一般会計からの繰り入れに頼ることなく事業を運営することとしている。そのため、令和4年度に実施した減免事業のような特別なことがない限りは基本的に他会計負担金を見込むことはない。

○長期前受金戻入とは何か。今後の予想は。

⇒長期前受金戻入とは、水道事業の設備など、減価償却をしていく資産の取得にかかる国庫補助金等の財源を、計算式に基づき毎年度収益化しているものである。

長期前受金戻入が今後どのように推移していくかについては、今後の設備投資規模にもよるが、国庫補助金等を財源とする施設更新が続く限りは毎年度一定程度の計上があると見込んでいる。

○石綿管など、古い配管の更新について、優先順位はあるのか。

⇒老朽管更新の中では、石綿管の耐震性が大きく劣っていることから、石綿管の更新を優先して行っている。予定としては、令和7年度までには市内の石綿管の更新が終了する見込みであるため、その後は他の

老朽管の更新を進めていく予定である。

○石綿管を撤去し、耐震性の高い配管に替えているということか。

⇒お見込みのとおり。

○ダウンサイジングで配管も少し口径を小さくしていると以前聞いたが、それは現在も更新工事の際に行っているのか。

⇒予定していた部分のダウンサイジングと更新工事を同時に行っている。

○給水原価はどのように算出しているのか。

⇒事業年報の 28 ページにあるとおり、経常費用から受託工事費及び長期前受金戻入を除いたものを年間有収水量で割ったものが給水原価であり、給水収益を有収水量で割ったものが供給単価となる。

イ 令和 5 年度ふじみ野市下水道事業会計予算について

○川崎調整池について、工事が終了していない現時点において以前と同規模の大型台風が来た場合は、以前のような被害が出る可能性があるのか。

⇒平成 29 年の台風第 21 号及び令和元年の東日本台風において元福岡地区については床上床下浸水があった。平成 29 年当時は、新河岸川の堤防の上をポンプ車が通行できるような状況ではなく、新河岸川の二日間雨量を超える雨量であったため大きな被害が出てしまった。

現在、同程度の降雨があった場合、ポンプ車が通行可能となっていることに加え、応急排水ポンプによる排水、川越江川の嵩上げ実施により堤防も以前より高くなっているため、被害は当時よりも軽減されるものと見込んでいる。

○軽減ということは、浸水被害は無くならないのか。元福岡の道路が低いところは、川崎調整池が完成してもやはり被害を受けてしまうのか。

⇒川崎調整池については、シミュレーションの結果、床上浸水がなくなり、被害が道路冠水程度に収まるような範囲での計画である。

シミュレーションの結果上、平成 29 年の台風第 21 号と同程度の降雨で道路冠水、場合によっては床下浸水被害が発生するものの、床上浸水は発生しないという計画で進めている。

○川崎調整池完成後の令和 7 年度以降はそうなるという認識で良いのか。

⇒令和 7 年度以降、平成 29 年と同規模の降雨があった場合はそのようになる。ただ、雨の降り方は毎回異なるのが当然であるため、ハード対策としての川崎調整池はあるものの、ソフト対策として危機管理防災課とも協力をしながら人命を第一に、避難を行うなど、被害を最

小限に留められるよう、事業を実施している。

○様々な値上げが相次いでいるが、和光市での流域下水処理にかかる値段は変わらないのか。

⇒令和6年度までは現在の単価と変わらないと聞いている。

○最近のマンションなどにはディスポーザーがついている。下水に流れる水質の悪化が懸念されるが、その影響で下水道処理も負荷が増して汚水処理ができなくなるのではないのか。

⇒ディスポーザーがついているマンションについては、各マンションごとに浄化施設を設置の上、水質基準内の汚水のみ流してよいということになっている。ディスポーザーの設置については、水質が基準内であると認定されたものであれば規制等は行っていない。

ウ 経営戦略の改定と水道事業アンケート調査集計結果（概要）等について

○経営戦略のイメージ図の中に「広域化・民間活力の活用」とあるが、どういうことか。

⇒国及び県が主体となって、市町村の区域を超えた広域連携による施設統合など、経営資源等を共有することで事業運営の効率化を図ることを推進している。経営戦略では、計画期間内の収支均衡が前提となるため、そのような効率化を図ることも事業運営の工夫のひとつとして挙げられるということである。

また、民間活力の活用については、民営化を行うということではなく、事業運営効率化のために民間企業とも連携しつつ事業を運営することも視野に経営戦略を策定していく、ということである。

○財政シミュレーション結果を見ると、人口減少に伴い水道料金収入はすぐに減少傾向になっているのに対し、下水道使用料収入は少し上昇してから減少傾向に転じている。このタイムラグの要因は。

⇒大きな企業では地下水を汲み上げて事業に使用しているところもあるため、水道料金収入につながらないことがある、ただし、汲み上げた地下水は下水道に排水するため、下水道使用料収入には加算されることとなる。それらを加味した上での中長期的な見込みにより、現時点でのシミュレーションでは水道料金と下水道使用料の収入減少時期に差がある状態となっている。

○地下水を汲み上げることにに対して規制はないのか。地盤沈下など影響があると思うが。

⇒井戸の使用については、埼玉県西部環境管理事務所で管理を行っている。西部環境管理事務所の許可に基づき、井戸の管理を行っている。

るため、市によって井戸利用に関する規制はできない状況である。

地下水を使用している企業についても、現在使用している井戸が枯渇した場合、新しい井戸を掘ることは難しいと想定されるが、現在の井戸が使用できる間はそのまま使用を続けるものと見込んでいる。

○将来の水道事業について、人口減少に伴う水道料金収入の減少に加え、加入金も減少見込みとなると経営が厳しくなるのではないかと。

⇒現在、本市の水道事業については水道事業収入で事業費用を賄うことができている「逆ざや」の状況である。

現在は、市内の開発により加入金収入が多い状況であるため、逆ざやの幅はそこまで大きくないが、今後加入金収入が減少することがみこまれるため、それらを踏まえたうえで経営戦略を改定し、中長期的な事業運営について見直す予定である。

○県内他市との料金の比較について、人が少ない県北は料金が高く、人が多い県南は料金が安い傾向にあることが分かる。ふじみ野市も254バイパス沿いで大規模開発を行っているが、大企業の誘致により水の増加は見込まれるのか。

⇒国道254号バイパス沿いの区画整理事業については、物流倉庫の設置であるため、水利用の増加は見込めないものと考えている。

○和光市や戸田市の水道料金がかかなり安価だが、その理由等分析はしているのか。

⇒今後そのような分析も行いながら、経営戦略の改定をしていこうと考えている。

○旧上福岡市にも旧大井町にも小さい水源地があるが、現在もその水源は使用しているのか。使用せずに維持管理の費用削減はできないのか。

⇒各地域に5か所ずつ、計10か所の水源地があるが、こちらはどれも必要なものであるため、今後も使用する予定である。

エ その他（報告）

水道料金及び下水道使用料減免について

（3）審議結果

議事について、了承された。

5 その他

事務局連絡事項

6 副会長挨拶

7 閉会